

mLa が魅せる大学の姿

阿児 雄之 (東京工業大学博物館・特任講師)
ako.t.aa@m.titech.ac.jp

「MLA 連携」：文化資源の収集・蓄積・提供という共通基盤をもつ Museum, Library, Archives の相互連携を指す言葉。数多くの組織が MLA 連携と叫んでいるが、そこまで大袈裟になることはない。大学においては、M も L も A も同一の大学内に属する組織だ。

私達の目的はひとつ、「大学を如何に魅力的にするか。」

ただ、それだけである。では、博物館と協働してみましょう。そして、博物館で協働してみましょう。

みなさんは、

- 大学図書館員ですか？
- 大学の図書館 (公共図書館) で働きたいですか？
- 図書館員ですか？
- 他の部署 (同大学内) で働きたいですか？
- 大学職員ですか？
- 大学博物館で働きたいですか？

国立大学図書館協会東京地区協会助成事業：コクダイマルケン 2013
「協働のススメ：つながる・つなげるライブラリアンを目指して」
2014年2月19日(水) お茶の水女子大学附属図書館

する

<単発的な協働：企画・イベント>

• リベラルアーツカフェ 2013.11.19 - 29



学生が主体となり、開催したイベント。博物館を舞台にして“巻き込み”、交流をつくりだし、東工大の魅力を知らせてもらいたい。ブックカフェを中心に、各種のイベントを企画。
博物館が舞台を、図書館が本を、生協が喫茶を協力。

主催：リベラルアーツセンター学生プロジェクト
協力：博物館、附属図書館、生協



参考：<http://www.liberal.titech.ac.jp/w/projects-archive/archive/>

<大学職員として：東工大博物館の運営補助>

• 東工大博物館 百年記念館のあゆみ

1981	東京工業大学百周年記念事業	1981	庶務部庶務課
1987	百年記念館竣工 (B1F に特別展示室)		
		1988.4	研究協力部研究協力課
		2004.4	学術情報部情報図書館課
2010.7	2F 展示室開室 (既存会議室を改装)	2010.7	研究推進部研究企画課
2011.4	東京工業大学博物館 発足		
		2012.4	総務部評価・広報課
2013.4	資史料館部門設立		



東京工業大学博物館・百年記念館

博物館 / 協働

<継続的な協働：日常業務>

• リファレンス対応

大学のIdentityを支える資源を集約、整備して発信するにはどうしたら良いだろうか。学内外を問わず、大学を知る、大学の資産を活用することができる仕組みづくりが重要。そのひとつの現れが、“リファレンス対応”



東京工業大学本館

- 私のお祖父さんの卒業アルバムが見たい。
- 川喜田二郎の論文はありますか。
- 手島精一学長の経歴を知りたいです。
- 東工大には何人いるのですか。
- ゆっくりレポート作成できる場所はある？

<博物館員として：経験を活かす>

図書館で培った経験はどう活かせるのでしょうか。また、他での経験をどう図書館に還元できるのでしょうか。

- Wさん：図書館→博物館 (設立前)
- Sさん：図書館→資史料館 (設立段階)
- Nさん：図書館→研究企画課→図書館



展示会受付

W: MLAそれぞれが、まずは機能すべき。
S: MAはまだまだ巣立つことができていない。
W: 展示会の応援要員として図書館員。
S: Mでは資料の扱いが異なる。戸惑い。
S: 展示への関心は大きい。
W: 資料を整理することと、部署を運営することの違い
W, S: 利用者像の違い
W, S: Lよりも一層Mの方が個々の独自性が高い

していく

*こぼれ話
協と協：作りは力を3つあわせた形。協は、それら力を一つに締めくくる。協は、こころもあわせる。